

大学受験とそのあり方に関する研究

——特に、1次集計の結果からみた女子高生の一般的傾向——

○ 小西啓子（竹早教員保母養成所）

浅田隆夫（筑波大学）

女子高生、大学受験意識、学部・学科の決め方、大学生活

1. 「大学受験とそのあり方に関する研究」の概要

はじめに

筆者らは、かつて「女性のレジャー行動に関する調査」（ライフスタイルや学習、女性の生き方等）としてかなり大規模（(1) 女子高校生367名、(2) 女子短大生397名、(3) 女子大学生522名、(4) 学卒者868名）な研究を実施した（平成3年6月）。

今回は、今後10年間に新しく世帯を形成する中心的な役割を担う階層である高校生にその「オモテ」ないし「ウラ」行動とも考えられる女子高生の学習—大学受験に関する意識調査を試みた。

この調査は、生徒用（大学・短大受験に関する意識調査）とPTA用（大学・短大のあり方に関する意識調査）の2部から構成されている。

1. 調査の目的・内容

1) 調査の目的

現在、大学は冬の時代を迎え、大学の内外から改革が叫ばれている。これを受けて各大学は専門性をいかに活かし、2年ないし4年間で何を学生に求め、何を活かしていくか21世紀の教育研究のあり方を志向した大学づくりが試みられつつある。

このような時、受験生（女子高生）やその母親は大学受験について、また、将来の生活設計についてどのような悩みや希望を抱いているのであろうか。

(1) 生徒について

女子高生がどんな考えに基づいて大学、短大の志望学部・学科を決定するのか。また、大学入学後、学部・学科に対してどんなことを希望しているのか。

(2) 母親について

女子高生の母親が、子供の大学受験やこれからの生活設計についてどのようなこと

を考え、期待しているのか・・・などについて明らかにする。

2) 調査の内容

- (1) 生徒について・・・
- 1 入試要項の入手方法 (6項目)
 - 2 志望校決定の時期 (8項目)
 - 3 志望校についての相談者 (4項目)
 - 4 入試法についての志望 (5項目)
 - 5 志望大学の種別 (4項目)
 - 6 学部・学科決定の理由 (45項目)
 - 7 大学生活で重視したい内容 (18項目)
- F2 年令
- F3 出身中・高校
- F4 現在の居住形態
- F5 志望学部
- F6 地域別志望大学 (種別)
- (2) 母親について・・・
- I 大学教育一般に関する考え方 (29項目)
 - II 大学教育内容の方針について (15項目)
 - III 学生募集について (13項目)
 - IV 施設・設備について (9項目)
- その他 (8項目)
- F1 年令
- F2 子どもの数

2 調査の対象・方法および集計処理

1) 対象・方法

M学園女子高等学校、3年生 (17歳～18歳) 330名 (18学級) およびその母親。

学級担任による内容説明 (平成5年12月20日) 後、自宅に持ち帰り記入。回収は平成6年1月8日。回収率生徒82.8%、母親79.8%。

2) 集計処理

第1次集計 (平成6年3月) 後、第2次集計を実施 (同年6月)。

2次集計は、因子分析を行ない (主因子法、バリマックス回転を用いた)、次いで

因子得点および相関係数の分析を試みた。例えば、上記、生徒調査・6「学部・学科の決定の理由（45項目）」の質問項目についていえば、これらの項目を因子分析、そこで抽出された因子の因子得点を求め、それぞれ専攻 各独立変数（志望、年齢、子どもの数）の2要因分散分析を実施、有意水準の検出を行なった。その他の質問項目についても、全くこれと同じ分析を試みた。

3) 研究成果

これらの一連の研究成果については、小西を含む以下5人の発表者により逐一報告する。

II 一次集計の結果からみた「女子高生の大学受験意識の一般的傾向」について

1) 結果と考察

(1) 調査対象者の実態

1. 年齢・・・高校3年生（17歳～18歳）
2. 出身中学校・・・公立学校（68.0%）、本学付属（25.4%）、私立（6.6%）そのうち共学校（67.4%）、女子校（32.6%）である。
- 3 現在の居住形態・・・親と同居（99.6%）その他（0.4%）、殆どの生徒が親と同居している。

(2) 受験に対する意識に関して

どこを受験するかを決定するに当たり、まず入試要項をどこで入手するかを順位別にみると、1. 書店で買う（42.0%）2. 大学に直接請求する（36.9%）3. 高校でもらう（11.9%）4. 雑誌から（6.5%）5. 予備校でもらう（2.7%）となっている。ではいつごろ志望大学を決定するのであろうか。志望校決定の時期は1. 高校3年1学期（39.5%）2. 高校3年2学期（30.3%）3. 高校2年後半（13.7%）4. 高校2年前半（5.9%）5. 高校入試以前（5.2%）であり、約70%が高校3年の1、2学期に決めるとみられる。中には高校を受験する時に既に志望大学を決定して付属高校を受験するケースもある。これは、調査対象者が私立大学付属高校生であることから当然とも言える。

それでは、志望校を決定する時に誰に相談するか。1. 父母（61.1%）2. 相談しなかった（13.7%）3. 友人、先輩（13.05）4. 予備校の先生（4.2%）5. 本学の在校生（3.8%）である。高校の進路室はあまり利用され

ていないようである。(進路相談会 0.8%)

子どもにとっては大学受験に際して親が経済的、精神的バックボーンになっている状況が伺える。このことからして、後述の調査報告、母親「親」の調査結果の内容が注目されよう。次に具体的にはどんな大学を志望しているか。1. 4年生大学：一般(46.6%) 2. 短大：一般(18.5%) 3. 本学(短大)：推薦(13.4%) 4. 短大：推薦(13.0%) 5. 4年生大学：推薦(6.5%)である。大学付属高校生ではあるが大学を受験する意志が約半数にみられる。

志望大学の種別を多いもの順に挙げると1. 外国語学部 2. 人文学部 3. 家政学・生活学科 4. 芸術学部 5. 法学部 である。地域別志望大学は、1. 東京都内私立大(84.9%) 2. 関東地区(東京都意外)私立大(10.5%) 3. 地方私立大(1.7%)。時には親元を離れて一人ぐらしをしてみたい願望はあっても、調査対象者の99.6%が親と同居という条件を照合すると当然の結果であろうか。以上が第1次集計の結果と傾向である。さらに、女子高校生の「大学受験に対する意識」の傾向を因子別にみると大学の学部・学科を選択する理由として最も「自己修養」を重視している傾向が伺える。(表I参照)

大学生活について重視したいものや、授業を通して身につけたいと思うものについての意識度に対しても自己修養を重視する傾向が顕れている。

マイケル・ポラニーはかつて知識には二種類あり、一つは明解に言語化できる知識(明示知)と他は言語化できない知識(暗黙知)があるとした。この二つの知識は、相互に交流、融合しあい、その知識の枠組みの中で豊かな「知」を創造していくが、その「知」は豊かな人間性から誘発され、人の心を豊かに創造あらしめるものであろう。今回の女子高校生の大学受験の意識からも、自らの心身が生き生きとし、将来、社会人としても広い教養と豊かな人間性を追い求めている姿がみえてくる。

あなたは、どんなことを考えて大学の学部・学科を決めますか。(表1)
 (5段階で自分の考えに最も近い所の数字に○印をつけて答えてもらった結果を上位10位、下位10位を列挙)
 1. 全く考えなかった 2. あまり考えなかった 3. どちらともいえない
 4. よく考えた 5. 非常によく考えた

上位10	平均	SD
自分の興味・関心から	4.4	0.8
教養を身につけ、視野を広めるため	4.0	0.9
自分の個性を確立し、伸ばすため	4.0	1.0
自分の将来の人生計画を立てるため	3.9	1.0
入試科目と科目数をみて	3.8	1.1

専門知識を身につけたいから	3.8	1.1
生涯打ち込めるものを見い出すため	3.8	1.1
自分の教科・科目の得意不得意を考えて	3.8	1.0
人間関係を広げるため	3.8	1.0
学生生活が楽しいから	3.8	1.0